

株式会社ジェイコムウエスト
第 11 回（2021 年度）放送番組審議会 実施概要

第 11 回の放送番組審議会は、審議委員へ案内した上で書面開催にて実施し、番組に関する意見をいただいた。

■日時：2022 年 2 月 4 日（金）～2022 年 2 月 28 日（月）

※書面開催の為、上記日程

■場所：書面開催のため、開催場所は無し

■審議委員（出席者）

会 長	赤崎 弘平	（大阪市立大学大学院 元教授）
副 会 長	中川 修一	（高槻まつり振興会 会長）
委 員	小山 敬子	（オフィス KEIKO 代表）
	新谷 俊廣	（宝塚商工会議所 専務理事）
	千田 忠司	（千日前道具屋筋商店街振興組合 理事長）
	高寺 壽	（株式会社エフエム泉大津 代表取締役）
	松田 須英子	（伏見大手筋商店街振興組合 理事）

■議事内容

- ◇第 10 回（昨年度）放送番組審議会書面開催でのご意見に対し、JCOM の対応
- ◇今年度の審議番組内訳
- ◇いただいたご意見・ご感想一覧

◇第 10 回（昨年度）放送番組審議会書面開催でのご意見に対し、JCOM の対応

ご意見①

吉村知事の発信も重要だが、基礎自治体の長からの発信が地域との関わりの中ではより重要。市長、町長、村長からの発信に限っても良いのではないか。

J:COM 対応

地域放送において市長や町長からのメッセージは、とても重要と考えております。

コロナ感染防止コメントは、適宜映像収録をさせて頂き、放送しました。

吉村知事については、コロナ対策において全国的にもリードしている事もあり、関西の方向性を示唆する意味でも放送させて頂いています。今後、偏らない様に番組構成に注意して参ります。

ご意見②

気になった点や改善したほうが良いと感じた点

川の映像は映像の見方を解説する必要があると感じる。一概に目の前の映像が正しいとは限らない。

J:COM 対応

国土交通省河川事務所との連携を強化しメディア共同研修や有事連絡体制を再確認致しました。

又、国土交通省主催による河川監視現場の説明会等に定期的に参加しました。

ご意見③

「断水に備えて食料水などの確保を」という文は

「水道が止まるかもしれないので、飲み水を用意しておいて下さい」といった表現ではどうか。

J:COM 対応

やさしい表現について、各制作事務所で日々反省会を行い、改善をはかるよう進めました。

現場では、NHK アナウスマニュアルを共有し、原稿作成時の参考としました。

又、今年は NHK アドバイザーによる現場指導の計画も予定しています。

ご意見④

「コロナ禍の中、このような対策、対応をしています」といった（店舗、施設、学校等の）紹介を。外出を控えている高齢者の方々に対して、地域でどのようなコミュニティがあるか等の情報を。一人暮らしの高齢者が孤独感を持たないよう地域でどんな事が行われているか等の情報発信してほしい。

J:COM 対応

コミュニティチャンネルの1番の視聴ターゲットは地域コミュニティエリアを主体としている主婦層、そして高齢者と考えています。地域に根ざした情報を今後も伝えるべく、情報収集に力を入れていきたいと思っています。情報提供を引き続きよろしく申し上げます。

NHK・民放の発信出来ない、狭域の地域情報に拘って行きたいと思います。

ご意見⑤

ハンマー&ダンスと言われているが、状況に応じて適切な報道が必要。大手テレビメディアが大きく報道している時は、むしろ逆に地域を落ち着かせるような報道が、J:COM の役割としては向いていると思う。

J:COM 対応

事件事故報道や野次馬的な NEWS 放送は、コミュニティチャンネル内では引き続き行わない方向です。地域の皆さんの安心・安全情報を考え、豊かな生活に繋がる事を視野に入れながら今後も番組制作を行って参ります。

ご意見⑥

健康支援番組、教育支援番組、近所のお店紹介などは一つの方向だと思う。

どの番組もどれくらい視聴者に役立っているのかを知りたいが、

特に「家ごはん」「健康体操」「教育支援」番組の成果を知りたい。

何かそれを知る方法はあるか。それぞれにつき視聴者からの反応メッセージなどがあれば教示希望。

J:COM 対応

本年も一部の大阪府内の中学生を対象とした「公立高校紹介番組」を実施させて頂きました。

今年の制作は各学校の先生や生徒の皆様に行っていただき、完成した学校紹介番組をコミチャンで放送しました。学区内の皆さんからは、〇〇高校はいつ放送されますか？等のご意見を多数いただきました。来年度も可能な限り継続していきたいと思っています。

◇今年度の審議番組内訳（2 作品）

今回審議いただく番組は、「ジモト応援！つながる NEWS」から特集コーナー「夢の地へ “夢洲”を記録する」と「かもん！おおさかもん!!」2021 年 4 月放送分の作品を視聴いただいた。

◇審議委員の皆様よりいただいたご意見・ご感想

番組① 「ジモト応援！つながる NEWS」夢の地へ “夢洲”を記録する

【全体的な感想】

- ・人の目にふれることのない、又、忘れ去られようとしている生き物、場所の記録として貴重な映像
 - ・夢洲を自然史博物館の学芸員の目を通して正確に表現していた。
 - ・もっと深掘りできる要素があり、例えばなぜ海の浚渫（しゅんせつ）物がなぜここにあるのか、なぜ浚渫が必要だったのか。短い時間の記録としてはよくできていた。
 - ・今まで夢洲について知らなかったが、今まで手付かずで放置されていた事、絶滅危惧種の「コアジサシ」や「カワツルモ」が見つかったことを知り、良いニュースだと思う。
 - ・舞洲での 2025 年開催大阪万博、IR と期待をしていたが今の実態がわからなかったので勉強になった。又、自然環境にもスポットを当てたのが、すごく興味が湧き良かったと思う。
 - ・『視聴者に何を伝えたいのか』、あるいは『問題関心はどのようなことなのか』などが明確でない番組進行役もゲストの専門家もそれらを明確に示していなかった。
- この番組は舞洲の自然環境が消滅してしまう事について問題関心があって制作されたと想像するが、それらの事が伝わってこない。
- ・夢洲を初めて見て、埋め立て地にも様々な自然環境がある事を知った。その中で今生まれているカワツルモやヨシ原の様な良い自然環境が、工事が進めば失われていくであろうことは残念に感じた。
 - ・今の夢洲の自然環境を記録するという企画意図は理解できるが、「貴重な自然」とか「大阪湾の貧弱化の象徴」というナレーションは、大阪万博を目前に控え、夢洲の自然の保護を訴えているのかと感じた。

【特に良かった点】

- ・身近な自然の復活が 50 年の時間を経て蘇ってきていることが表現できていたと思う。海沿いの造成地の在り様がよくわかった。
- ・大阪湾の埋立地の状況や、今後の開発（万博）により、貴重な動植物の保護等が喚起できた。
- ・上空からの映像は夢洲の現状が判りやすく良かったと思う。学芸員の取材で、コメントもわかりやすかった
- ・こういった経緯を記録していくことはとても意義あることと思う。映像を残していくことで歴史を振り返るだけでなく問題点、改良点を見直していけるので、記録の重要性を語っている点が良かった。
- ・情報発信だけでなく環境問題にもスポットを当てたのが良かった。

【気になった点や改善したほうが良いと感じた点】

- ・最後の女性アナウンサーのまとめかたが気になった。大阪万博の会場になって壊されてしまうという、先入観でまとめようとされていたが、企画意図と全く離れている。こんな状態で放送されたのなら、大変残念だ。今回の放送意図は、大阪湾に残された自然環境の力強さ、したたかさなのではなかったのかと思う。
- ・もう少し詳しくコアジサイやカワツルモの説明があれば良かった。
- ・タイトルの「夢洲を記録する」と、最後の MC の「身のまわりの自然を知る」というコメントが、あまり合っていないように思う。視聴者に「記録していく必要がある事」と思うように内容を掘り下げてほしい。他にどのような生き物が生息しているのか、飛来してくるのか、写真等があれば。など。
- ・どんな番組でも「視聴者に何を伝えたいのか」を明確にする必要がある。記録やドキュメント番組の場合、偏った主張や予断を排し、まずは正確な事実を伝えることが第一だが、その番組制作者の「問題関心」は必ずあるはず。当該番組の場合、長きにわたって未利用の大都市臨海部埋立地に“水たまり”ができ、そこに生物の営みが幾重にも重なっていることが伝えられた。番組制作者はその中から、視聴者に何を汲み取ってほしいと企図したのか。それらの水辺環境は今後の土地利用によって、近い将来消滅することが想定される。そんな想定がある中、何を感じ取り、何を考えてほしいのかなど、一歩も二歩も踏み込んだ問いかけがあるべきではなかったか考える。
- ・女性アナウンサーの導入部分のインフォメーションが少しわかりにくかった。舞洲の今までの歩みを簡単に入れてみても良かったと感じた。
- ・（番組の尺を）もう少し長く。

番組②「かもん！おおさかもん!!」4月放送分

【全体的な感想】

・大阪を誇りに思わせてくれる、地場産業(タケノコ)(あみだ池大黒)(大阪産料理そら)をテンポ良く紹介されていたと思う。たけのこでの軽妙なやり取りは一流の芸だと感心した。粟おこしの社長の人柄まで見えたやり取りは良かったと思う。

・京都の有名なマツタケの産地に隣接する島本町でおいしいタケノコができる、そのタケノコが大阪市内でおいしいお菓子になるというストーリーがわかりよかった。

・テンポが良く楽しい番組。内容も様々なニュースが入っており盛りだくさんで良いと思う。

・大阪の農林水産物を中心とする「大阪産（もん）」の番組は“おいしいもの”いっぱい。また大阪に居ても知らないことが沢山盛り込まれており、たのしい番組であった。番組編成も多様で好感が持てた。ただし、番組当初の“サイモンとガーファンクル”のくだりは要らなかったのではないかな。番組進行役の女性が、今も受け継がれる多くの名曲を生み出した“サイモンとガーファンクル”を知らなかったのは残念だったが、そうであるとすると余計にあの場面は不要。番組内容の導入部に使われた「和紙」は「大阪産」とは関係なかったのか？この用紙も「大阪産」であると、もっと盛り上がったかもしれない。

・大阪といっても山城に近くタケノコの産地があるのには初めて気付いた。この様に地元の人には当たり前知っている事、知られている事を取り上げている点が良いと思う。

・大阪で居りながら島本町がタケノコの産地であるとは知らなかった。もっともっと魅力ある大阪をPRしてもらいたい。

【特に良かった点】

・取材対象者を生かしたビデオだったと思う。やのぱんさん、田口万莉さんのスキルの高さが出ていた。これくらいのレベルでないと放送に出してはいけないと思う。

・タケノコ掘りの場面では、やのぱんさんの会話もよかったが、カメラワークの良さが光っていた。粟おこしでも話の展開にカメラが付いてきていた。こちらへんに編集力の高さが良かった。

・大阪の北東端の島本町の紹介。サントリーもおいしいタケノコも水無瀬神宮も島本町やったんや。

・タケノコ掘りで地権者が出演され、実際にレクチャーされたのが面白く視聴できた。取材したタケノコと、おこしのコラボメニューもめずらしく興味を持った。

・制作目的と番組構成が完全一致して良かった。

・大阪でも美味しいタケノコが収穫できる場所があることを知らせることは大切。島本町だけではなく、手入りの行き届いた各地の竹林ではおいしいタケノコがとれるのだろう。そして、江戸期から続く「大阪名物：岩おこし・粟おこし」メーカーの紹介。幼少時にあのおこしを供されたことはあったが、あまりにも“硬く”口にしなくなっていた。そんな中、この老舗メーカーが数十年前から工夫を重ねて色々な商品を販売されてきたことは知っていたが、現在は更に多様な商品を開発されていることを紹介。加えて、この二つの食材をマリアージュした料理を、大阪発祥企業:サントリーが創業地の工場でつくり続ける“ジン”と一緒に供する居酒屋さんで番組を締めくくるのもよかった。

【特に良かった点 続き】

- ・自然の産物のもとと人の考えた商品のもとという二面からの構成が知れるのはとても興味深く良いと思う。
- ・おみやげにと高島屋にはよく行きますが栗おこしは知っており、他の商品も買ってはいるが、あみだ池大黒さんの商品“おおさかもん”とは知らなかった。安くて美味しい。

【気になった点や改善したほうが良いと感じた点】

- ・最後の料理で無理やり、たけのこと栗おこしをくっつけていたが、おいしいものめぐりとしてはよくできていると思うが、ビデオの展開としては、そらで食べたもんがあまりにおいしかったので、その食材の現場を探しに行ったという展開もありかと思った。
- ・咲洲庁舎 – 島本町 – 大阪市内向上 – 飲食店という位置関係、流れがつかめなかった。あとで、地図を見て納得した。
- ・スタートで、ハッピを忘れた事を笑いネタにするのは大阪だからか？私はヤル気のないスタートだと思ったし、取材先を決めるやり方は意味不明だった。女性の試食時はきちんとマスクをしてからコメントして欲しい。
- ・屋内外を問わず、感染対策工夫し、ノーマスクでの演出を！と感じた（声がどうしても聞き取りにくい）。
- ・16・7 年前頃、京都・長岡京市の西山山系の裾野を通って京都市に至るルートをよく車で使っていたが、その道すがら、見かけたのが放置されて荒れ果て、延々と続く「竹やぶ」であった。「確かこの辺りはタケノコの名産地だったのでは？」と訝りながらの道中。聞いてみると、安価なタケノコの輸入増加などもあって、大変手間のかかる竹林の管理とタケノコ収穫は放棄されてしまったとのこと。農林業の厳しさと難しさの一端を知った。そんな厳しい条件の中、昔は「京・山科」という銘柄を名乗らされて出荷していたこともあるという島本町・桜井のタケノコの紹介。その収穫は大変な竹林管理の努力と手間があつてのことでしょう。特に農林業の背景には大変なご苦労があるはずで、そのことをもっと伝えてほしかった。
- ・録画で再生して見るよりは 1 回で見る番組と思うと「タケノコ」か「おこし」かどちらが印象に残るのか？もう少し「タケノコ」に対して深い情報があつた方が良かったように思う。
- ・素材を生かした料理は良いと思いますが、合体したのは、ちょっと無理かな。

その他、番組以外に関するご意見

- ・コロナ情報などは、市のホームページで手に入れることが多い。スマホでなんでもできてしまう時代に急激になってしまった。今ではほとんどのお店がホームページや、アプリをもっている。知りたいことは何でもわかるジェイコムになってほしい。
- ・コロナ禍で運動不足が気になる中で、ウォーキングが見直されている。地域で安心して歩けるコースなどの紹介はどうか。
- ・外で運動するために、身近な地域のウォーキングコースを紹介しては。
- ・一人暮らしの高齢者の為に、コロナ禍の中でも参加できる行事や、家庭内でも出来る事を紹介。
（高齢者が孤独を感じないように）。
- ・家庭内でどのような感染飛沫対策をしているのか、参考例を紹介する。
- ・アンケート「回答用紙」の回答欄をもっと大きくしないと回答が困難。次回以降は改善を期待する
- ・現状下で「この地域では具体的にこの様な施設でイベントが開催されました。」「この様な工夫をして子供達を遊ばせました」等、映像で伝えてほしいと思う。今を楽しく豊かに生活するアイデアにつなげる報道を望む。
- ・もっと“おおさかもん”と歴史文化の紹介を加えながら PR をしてほしい。観光と地域物産推しをお願いする。

これらのいただいたご意見・ご感想を、現場の制作スタッフや関係者にフィードバックし、今後の制作に役立ててまいります。

以上